

平成30年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市ふれあい温泉 むつ市湯野川温泉濃々園 むつ市野平高原交流センター むつ市まちなかの駅かわうち	
指定管理者	団体名	むつ市川内町商工会
	代表者	会長 半田 義秋
	所在地	むつ市川内町川内115-9
指定期間	平成29年4月1日～平成32年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	関係法令等を遵守し、利用者が快適に施設利用できるよう、施設の設備及び備品等の維持管理を適正に行う。 市民や利用者の意見、要望等を考慮し、平等に利用できるようにする。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区分	上半期計画額 ①	上半期実績額 ②	増減 (②-①)
収入合計 (A)	18,255	18,216	△39
うち利用料金額	10,500	10,461	△39
うち指定管理料	7,755	7,755	0
支出合計 (B)	12,500	12,290	△210
うち人件費	6,100	5,715	△385
収支差 (A-B)	5,755	5,925	170
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	75歳以上の増加により、入浴料収入が減少傾向になっている。 わきのさわ温泉開業により、脇野沢地区の利用者が減少した。 家族連れや小グループの道の駅利用者が増加した。		

3. 施設利用の状況

単位：人

	区分	上半期計画 ①	上半期実績 ②	増減 (②-①)
利用者数	ふれあい温泉	13,578	12,322	△1,256
	濃々園	8,727	8,472	△255
	交流センター	15,460	17,498	2,038
	まちなかの駅	18,250	18,250	0
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・ <input type="checkbox"/> 無） ・施設の老朽化が指摘されている。（雨漏り、汚れ、寒い、タバコの煙など。） ※出来る範囲の修繕、清掃、喫煙場所設置を指示、実施している。 ・職員の接客マナーが良くない。 ※職員に注意し、接客の指導をした。 ※専門講師による、接客指導を実施します。 （・＝利用者の声 ※＝対応状況）				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出
オリジナルグッズ商品開発販売事業	292	146	73
ご当地メニュー開発販売事業	255	230	115

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

むつ市から、指定管理制度を受託して、ふれあい温泉川内・湯野川温泉濃々園・野平交流センター・まちの駅かわうちの4施設の管理運営をし、地域住民等に保養休養の場を提供し、健康増進施設、交流施設、地場産品販売施設として、利用者に対するサービスの効果効率を向上させ、もって地域の福祉及び川内地区の観光振興に務めた。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

入浴料減少については、高齢者が増加傾向にあるのは地域の実情としてやむを得ない部分もあるが、それを補うための仕掛けは必要なことから、新たな試みや、周知の徹底を図るなど、入浴料減少についての対応を検討して欲しい。

また、施設の老朽化も、検討が必要なところであるが、まずは利用客にできるだけ不便がないよう対応して欲しい。接客については、今後も改善を図りながら、利用客が不満を感じないように、市内だけでなく市外からのお客様もいるものと考えて接客し、今後も、地域の保養休養の場として、川内町の観光振興のため、積極的にPRを行い、より多くの集客・収益を目指して欲しい。

さらに、これから冬期間となり、人の動きも鈍くなることが予想されることから、売上減少にならないよう留意して欲しい。